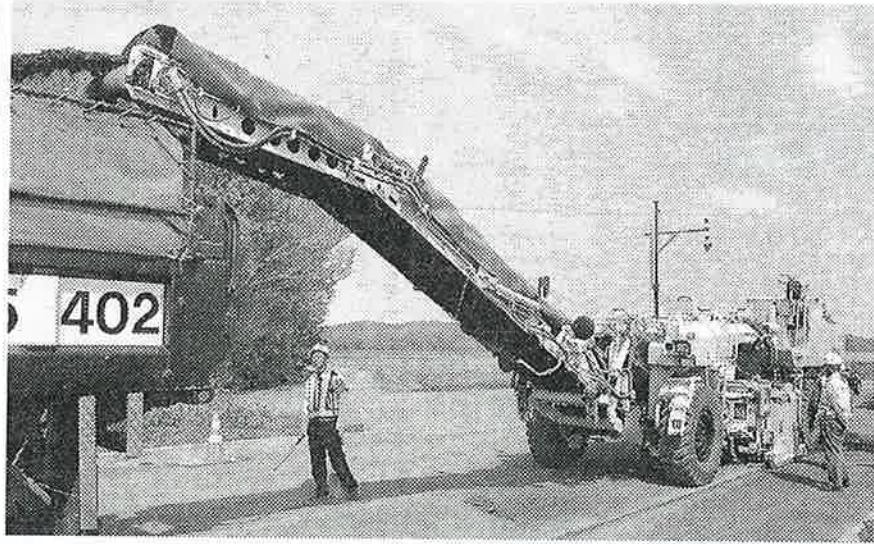


平成24年5月24日 建設新聞



札幌建管の職員らが見守る中、路面切削の情報化施工を進めた（22日）

舗装現場に情報化施工

北央道路業

マシンコントロールシステム活用

北央道路工業（本社・札幌）は、当別町内の道路舗装現場で、路面切削にマシンコントロールシステムを活用した情報化施工に取り組んだ。オペレーター

の熟練度にかかわらず、精度の高い切削を可能にするもので、21、22日の2日間にわたり延長約500メートルを施工した。

グレーダーによる路盤

敷きならしなどを自動制御する、トプコンソキア

精度の高い切削可能

ポシヨニングジャパン（本社・東京）のNET IS登録技術「3次元マシンコントロールシステム3D-MC」を舗装路面の切削に応用した。道内での施工事例は初めて。

切削機に制御機器やセンサーを取り付け、3次元設計データを入力、自動追尾トータルステーションで測位しながら、路面の形状に合わせて自動切削する。オペレーターが

注した当別浜益港ほか舗装。延長約500メートル、幅員8・5メートルの車道を、平均2・7メートルの深さで切削、3センチの厚さで表層舗装する。

施工協力の今日和（本社・北広島）が保有する切削機に制御用油圧バルブコントロールやスロープセンサーなどを搭載。岩見沢市内にある北央道路工業のプラント構内での実証試験を経て、トータルステーションが確実に測位できる150メートルに区切り施工した。